

きぼう

令和7年9月30日(火)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
5年 学年便り 10月号

～後期へ～

秋分の日を境に、気温も空気も一気に秋模様へと早変わりしました。ふと地面をみると、緑から茶色に変化した落ち葉が広がっていたり、肌に当たる風が爽やかで透明感のある心地よいものに変化していたりと、待ちに待った「秋」が到来したことを実感しています。

9月から6年生のつどいの発表が始まりました。「先生、このままじゃ俺たちまずくない？」ある子が6年生のつどいを見て言ったセリフです。5年生もつどいの練習をしているのですが、今の練習態度や進捗の状況を振り返り、その危機感から思わず出た言葉だったのでしょう。「もっとみんな気持ちをもってやろうよ」「ふざけないで真面目に練習しないと」「いいつどいの発表にしていこうよ」学級の仲間に向かって呼びかけるその子の目には、(俺たちのクラスだったらもっとできるよ)という思いがあふれているように感じました。

体育館で全校を目の前にして行うつどい。クラスとしての発表の時間は20分程ですが、そこには「クラスで大切にしていることを全校に伝えたい」「学級のつどいの発表を通して、学校をもっとよりよくしていきたい」という子どものおもいがつまっています。だからこそ「形が整った」つどいを目指すのではなく、学級の子どもの手で、この子どもにしかできないつどいを目指していく。そのプロセスにこそ価値を見出し、支えていきたいと思えます。たとえ形が整ってなかったとしても、子どもが子ども自身で考え、創り出したつどいだからこそ、そのつどいにかけるおもいは深く、それぞれにも還ってくるはずです。今から5年生各クラスがどんなつどいを発表するか、とても楽しみです。

9月30日から後期がスタートしました。前期が終わる直前に子どもがクラスのみんなに話してくれた内容を紹介します。

- ・(高学年として) みんなをまとめられる、そんな人たちに僕もなりたいです。
- ・附属小の良いところは一人ひとりの個性が強くて、元気なところだと思います。みんなが個性と元気を発揮できる、もっと楽しい学校をつくっていきたいです。
- ・附属小の大きな魅力として「自由」があります。この「自由」という言葉は聞こえがよくて、素敵なひびきをもっています。しかし最近ふと思ったんです。果たして僕たちは本当に正しくつかえているのだろうか？自分の気持ちだけを優先して、他の人の気持ちを置き去りにしてしまうこと。時間やルールを守らずに自分だけが得をしようとするような行動。僕はとてももったいないと感じます。自由をつかってどのように行動するのか。そこに僕たち一人ひとりの責任があるのではないのでしょうか？

子どもは後期の生活の中でも一人ひとりが、「自分自身をよりよくしていきたい。成長していきたい」と思っているはず。そのような芽がいつの日か大きく花開くまで、そこにきぼうの水を注ぎ続け、支えていきたいと思えます。これからもご家庭でのご理解、ご協力よろしくお願ひします。

